

高 北条同窓会だより

北条同窓会
立同学校
愛媛県立北条同窓会
高等学 2021.2
発行 山本智紀
印刷 株式会社松栄印刷所

ごあいさつ



同窓会会長 山本智紀

特徴は、「個性の尊重」「多様な選択科目」「単位制」等であり、校訓「自律 創造 敬愛」の実現。私も平成十一（一九九九）年からの三年間、ブレザー第一期生として北条の地で、一生涯何物にも代え難い素晴ら

北条高等学校同窓会会員の皆さまには、御健勝のこととお慶びを申し上げます。また日頃より本会の活動に御理解と御尽力を賜り、心から感謝と敬意を表する次第です。
平成八（一九九六）年四月、中予地域における県立高等学校唯一の総合学科として学科が改変され、今年度は創立七十二周年を迎えました。平成二六（二〇一四）年五月、当時の生徒たちが定めた「命輝くために北条高校生の誓い」の実践を通して、「多様性を尊重し、総合学科の強みを最大限に生かした教育活動の中で、未来を創る生徒の育成」を目指し、学校長はじめ教師と生徒が北条地域の一員として、地域社会とともに歩みを進めて来られました。すでに御承知の通り、総合学科の



コロナ禍の中で

校長 森田桂子

同窓会の皆様におかれましては、ますます御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。皆様には、平素から母校の教育活動に格別の御理解と御支援・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

しい時間を過ごしました。
この二十一年間で、地方の若者たちの東京一極集中が進み、少子高齢化による人口減少の国難の波は、日本全国に重大かつ深刻な課題として押し寄せる世の中となり、未だ世界各地で猛威を振るっている未知なる感染症を前に、従来の在り方そのものが問われています。
私たちがこの多大なる苦難の前であるからこそ、今一度母校の持続可能性を全体で考え、実行し見守っていく必要が求められる時代だと考えます。二〇二一年度が北条高等学校同窓会会員の皆さまにとって、新たな時代への船出の年となり希望の光が差し込む年となることを心から願いつつ、どうぞ引き続きましての本会の活動に対する御理解と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年度、本校は創立七十三年度、平成八年度に総合学科として新たなスタートを切ってから二十五年目を迎えています。本当なら、東京オリンピック・パラリンピック東京大会の話題に花が咲き、感動の名場面や選手の名言を思い出しつつ一年を振り返っているはずでした。しかしながら、令和二年一月に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は止まらず、今年度は、縮小して挙げられた入学式の後、間もなく二度目

の臨時休業、五月の分散登校を経て完全再開された後も、マスク着用、毎朝の検温、手指消毒や手洗い、換気の徹底等が当たり前の毎日となりました。「新しい生活様式」「新しいコロナ」を意識しながらの学校生活が現在もお続いています。
御承知のように、今年度は、コロナ禍の影響で、校内外の様々な行事や大会が中止となりました。三年次生はじめ生徒たちの多くは、落胆や失望、怒りなど様々な感情に揺れ動く中、自分や仲間の方だけではどうにも変えられない現実があることを知ることにしました。しかし、その後の彼等の「起き上がる力」は素晴らしい形を模索しながら柔軟に対応し、将来の進路選択に向けても各自がIの力を発揮し続けました。振り返れば、周囲の理解や協力をいただきながら、生徒・教職員が一丸となり、多くの学校行事等を「できることをできるときに精一杯」やり遂げる事ができました。感謝とともに北条高校の「I」と「We」を誇りに思います。何より、北条高校生の明るさ、逞しさが大きな力となりました。
後先になりましたが、今年度は、同窓会の皆様から、学校旗と「鳳」「隼」「颯」の各グループ旗を新調していただきました。秋の体育大会当日、色鮮やかな四枚の旗の下、全校生徒が力強い入場行進を行いました。誠にありがとうございます。
同窓会の皆様には、北条高生たちの挑戦や活躍を、今後も引き続き温かく見守り、応援してくださいませよう、どうかよろしくお願いたします。

同窓生からの 便り

つながる「輪」

昭和五十四年度卒 大原 正志

氏は在校当時は野球部で活躍しベスト8の成績を残しています。現在はトヨタカローラ保免店の店長として活躍されています。

北条高校を卒業して四十余年が経過しました。今年もう還暦を迎える歳になってしまいました。中学、高校で野球部に所属して練習に明け暮れていました。高校野球は時間と中身の差は想像以上のものでした。初日からこの先二年半の間、この厳しさについていけるのかと不安に思った事を覚えています。また、今でも半年に一度くらいは、練習の光景が夢に出てくるほどです。

卒業後は、専門学校を経てトヨタカローラ愛媛株式会社へ就職し、現在に至っています。自動車販売の営業職を四十六歳までさせていただきました。その際、高校時代の数多くの同級生や先輩、後輩の方々に購入、紹介をいただき、そこから輪が広がりがついで、現在の自分があると思っています。自動車は家に次ぐ大きい買い物です。人間関係、信頼関係が無ければ成り立たず、高校時代の仲間が助けられた事が幾度となくありました。今でこそ、休日消化

や有給取得、残業時間の規制が当たり前になっていますが、私が若い頃は営業だから売って当たり前。売れていなければ休日返上してでも成果を上げる。夜は十時くらいまで勤務し、結果を残すことに腐心していました。

これらのことが、あまり苦に感じずに過ごせたのも、高校時代の練習と比べたら、大したことはない。むしろ楽だったという経験が根底にありました。本当に大きい財産になっていると思います。

最後になりますが、現在は松山保免店で店長をさせていただいております。車関係の事は何でも相談させていただきます。この場をお借りしてお願い申し上げます。



当時の野球部

北条高校入学、

「吹奏楽」との出会い

平成十四年度卒 福田 健泰

氏は、在校当時は吹奏楽部で活動され、現在は会社を経営される傍ら、同窓会副会長として御尽力いただいています。

早いもので、高校を卒業してから約二十年近い月日が流れようとしています。高校生活の思い出といえ、とにかく部活三昧の日々……。私は、高校時代、吹奏楽部に所属していました。当時の顧問二宮洋子先生(旧姓矢野)の御指導のもと、仲間たちと共に、目には見えない形のないものを創り上げていく。音楽づくりを、ただひたすらに、追い求めていた毎日を思い出します。

私は、一年生の九月に入部し、コントラバスという楽器(バイオリンを大きくしたような楽器)を初心者から始めました。また、二年生の秋からは部長を務めさせて頂きました。高校時代の「吹奏楽」との出会いや部活動を通して学んだ様々な経験が後々の人生に大きな影響を与えることになることは、夢にも思っておりませんでした。吹奏楽は、高校卒業と同時に社会人吹奏楽団を結成し、今でも続けています。

現在、私は二つの会社を営んでいます。二十歳代後半に勢いだけの見切り発車で創業した会社と数年前に引き受けた会社の二社です。ろくに勉強をしていない私に



当時の吹奏楽部

とって、今の経営の根幹にあるものは、吹奏楽を通じて学んだ、「チームワーク」の重要性、組織の多様性、そして、変化し成長し続ける中での本質的な課題解決に向かう姿勢・成長軸の大切さです。さらに、北条高校独特の「ド根性・根拠のない自信(笑)」が加わり、今の私があります。当時を振り返ると、本当に小生意気な私を、温かく見守ってくださった諸先生方、家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

自分の人生の中で、とても密度の濃い、充実した日々を過ごした三年間は、今でも貴重な財産です。最後になりましたが、「北条高校」という貴重なご縁で繋がっている同窓生の皆さま、そして、今後、社会に出ていく現役生の皆さまの御健康と御活躍を切に願っております。

好きなことを続けるには

平成十六年度卒 高木 悠

女史は在校当時は吹奏楽部で活躍し、現在は東京を拠点にプロのドラマー・パーカッションリストとして活躍されています。

私は、現在東京でドラマー・パーカッションリストとしてレコーディングやライブスポットでのサポート演奏、自身の活動としてはドラムボーカルをやって、プロとして活動しています。とは言っても、上京したての頃はアルバイトで生計を立てるしなくて、不安な日々を過ごしていました。しかし、夢だけは追い続け、休みの日にはセッションやライブに出向くなどして地道に動いていました。そのうち段々とプロミュージシャンに声をかけて頂けるようになりました。御縁というものは不思議なもので、今では大物芸能人のパッパで演奏させていただくなど、ありがたい機会にも恵まれています。人は繋がっていくものだ、と、ご縁は大切にしなければならぬとつくづく思います。

私は高校卒業後、くらしき作陽大 学音楽学部打楽器科専攻に進み、主にクラシックを学んでいました。そこで大学の仲間とバンドを組んだことをきっかけに、軽音楽の道を意識し始めました。卒業後、音楽とは無関係の仕事をしたが、演奏活動を続けていきました。しかし、時間は容赦なく過ぎていくもの。あつとい



う間に三年が過ぎていました。そんなある日、東京のあるミュージシャンにお会いし、その音楽に衝撃を受け、是非お近づきになりたい！というだけの思いが募りました。その方が定期的に東京でやっているセッションに、隔月で岡山から東京まで通いました。とにかくレベルが高い！やっぱこういう人たちがいる東京で音楽をやりたい！という思いが芽生えました。

プロになりたい！という気持ちを固めました。簡単に結果を出せるとは思いません。「やる」と決めてたものの、いつしかバイト先の飲食店の店長になっていたなんて話はザラにあります。初めは両親からも、何の保証も勝算もないのに、なぜ東京へ行かなければならないのと反対されました。あわよくば東京で実績を作るチャンスがあるかもしれないなどと、ちよっとした甘い期待も持ちながら、あとは自分の強い想い・信念と、これまでの音楽活動で培ってきたものを信じるしかありませんでした。両親にはその程度の気持ちしか伝えられなかったのですが、なんとか賛同してもらい、協力を得て上京させて頂けました。

私は幸いにもジャズをやってお ば一晩で二、三人は連絡先を交換出

来ました。自分が良いプレーが出来ていけば向こうから声をかけてくれます。「プロになりたいから上京してきました」といえば色んな方が協力してください、知り合ったプロミュージシャンの方も親身になって助言をしてくださいました。お酒を交わしながら、手の届かない存在だった先輩ミュージシャンに、自分の話を聞いて頂きたいというのは、贅沢すぎる空間でした。何かあった時には相談に乗ってくださいだったり、親身な愛情を感じることも多々ありました。(中には癖の強すぎる方もいるので要注意ですが……)

今はどうにか音楽で生活出来るようになりましたが、二〇二〇年は新型コロナウイルスの影響で、活動制限を余儀なくされました。消えていく予定に斜線を引いていた手帳を見ながら、もどかしくも不安な気持ちでいっぱいでした。ライブがしたい。共演者やお客さんに会いたい。「良質な音楽活動をやっていきたい」という思いを発信したく、「イチナナライブ」(略してイチナナ)というアプリで生配信を始めました。自宅から配信するための機材を揃えたりするうちに、仕事も無いのにお金だけは減っている。それでも何もやらなくて落ち込んでいたより、何かをした方が良さだ、何かが生まれるかもしれないぞと行動した結果、配信ライブやラジオ等、私の活動も遠方でも楽しんでいただけの方が増えてきました。おかげさまで、どうにか凌げた

話に戻して、好きなことが出来て、楽しそうでいいねとよく言われるのですが、私がやって来たことは地味なことを積み重ねて、たまに巡りくるチャンスに、勇気を持って立ち向かってきただけのことです。チャレンジするかどうかの違いです。やらずに後悔するの、か、やってみて失敗してみても、ちゃんと反省し、改善を試みていけば、必

二〇二〇年になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

ネットの世界は、まだまだ信用できないと感じる人が多いようです。実際、SNSでの誹謗中傷やトラブルが問題になっています。しかし、使い方をさえ気を付けて活用すれば、自分を助けられる存在にもなります。今年イチナナで出会ったミュージシャンと組んだユニットで、楽譜の出版とCDの販売が決定しました。それに、SNSが無ければ今頃私はこの記事を書いていません。某先生が、私を見つけてくれたこともありません。でも、日頃SNSで発信する投稿とは違うので、いつもより背筋を伸ばした気持ちで執筆しています。こんな機会を頂けたことを改めて感謝いたします。



ず手を差し伸べてくれる人が現れません。人を信じていれば信じてもらえます。信じてもらえる自分であらうとすればいいのです。

ともあれ、遠回りをした結果「今」があるので、この先はいかに長く音楽を続けていくかを考えています。絶望の中にも希望を見出せるかどうかが、私の一生の課題かもしれません。絶望の隣には希望があります。気付くか気付かないか、本当はちよつとした違いなのかもしれません。

東北の大震災から十年。コロナ禍で総体や発表会がなくなった高校生もいます。大学に受かったのに通学できない学生もいます。緊急事態宣言で生活が困難になってしまった方々もいます。どうか、希望だけは失わないでください。誰かがきつと見てくれるはずですよ。

こんな私も、偉そうに芸名を使っております。興味を持ってくださった方、「高木悠圭」とネットで検索してみてください。なにかしらのご縁が生まれたら幸いです。

あの部活動は今!

野球部

澤田監督の下で

野球部主将 福田龍之介

小学校三年生から野球をしている僕は、あの澤田監督の下で、レベルの高い高校野球をやりたいと思



迷わず北条高校を選びました。みんな同じ思いでそらい、高校三年間を野球に打ち込んだ仲間です。

目標は甲子園。目的は人間形成の言葉の下、監督からみっちり鍛えていただきました。技術的にはこれまでとはけた違いに高いレベルを教えられ、出来ない自分が情けなく思う日もありました。しかし、ミスした時には必ず何か原因がある。それが基本を身に付けるということだと気付かせていただきました。とにかく、監督さんの言葉は、すべてにおいて信用できる説得力があります。精神面というか、人間性というか、とても成長できたと思います。

例えば、言葉遣いや挨拶等の礼儀。人と初めて会ったときは、その第一印象がほとんどであるから、どういいう挨拶を交わすことができるかで今後が決まる。辛いことがあっても、それを乗り越えられたら、そこには新しい自分が存在するのだから、ピンチこそチャンスである等。



感染症対策をしながら

これらは理屈で身に付いたのではなく、自分の場合はキャッチャーとして、あるいはキャプテンとして、全体を観察するうちに自然と身に付いたことです。経験を通していつの間にか身に付いているというのは、気付いてみれば当たり前のことです。誰にでも出来る事じゃない貴重な体験ができたと思えます。

今年は、コロナの影響で夏の大会が中止となり、甲子園という目標が消えてしまいました。これまでの努力が水の泡になったと正直落ち込みましたが、ミーティングで、まだ終わらないうちに頑張ろうと励まされ、前向きに考えることができました。そして、代替試合が組まれ、チームとしてそれをやり切ることに全力を注ぎました。自分たちなりの最高のパフォーマンスができました。だから、悔いなく高校野球を終えることが

ができました。月並みな言葉ですが、本当に多くの人に助けられ、励まされてきたおかげです。感謝しかありません。澤田監督に出逢えて本当に良かったです。その思いを胸に、僕たちは、次の目標に向けてそれぞれの道を進んでいきます。

同窓会事業報告

(令和二年度)

①同窓会役員会

令和二年五月二十六日(火)

北条高校会議室

感染症拡大の情勢下、山本会長、福田副会長、渡部副会長と学校側七名が参加し、縮小した形で役員会が開催されました。

令和元年度行事報告・決算報告及び監査報告、並びに、令和二年度行事計画案・会計予算案が審議され、いずれも承認されました。校旗・グループ旗の新調、トイレの一部洋式化など、学校支援についての報告もなされました。

②同窓会総会・懇親会

感染症拡大のため中止。(役員会をもって総会の決議とさせていただきます。)

③同窓会だより第四十二号発行

令和三年二月二十七日(土)

④同窓会入会式

令和三年二月二十七日(土)

北条高校体育館

入会記念品として卒業証書ホルダーを贈呈

躍進

(在校生の活躍)

(令和三年一月二十九日現在)

諸活動の主な成績

(今年度はコロナ禍の中、県総体をはじめ競技によっては大会の中止が多々ありました。)

(部活動)

◎なぎなた部

◎令和二年度なぎなた新人大会兼第16回全国高校なぎなた選抜大会
県予選会
団体試合 一位
(選抜大会出場決定)

演技競技(中尾・神山) 一位
個人試合(神山 未完) 一位

◎吹奏楽部

◎第34回愛媛県高等学校総合文化祭吹奏楽部門 優秀賞
(令和二年度全国総文祭和歌山大会出場決定)

◎第44回全日本アンサンブルコンテスト愛媛大会 銀賞
木管八重奏

(検定その他)

◎日本漢字能力検定 加藤 陽菜 2級

◎令和二年度大切な命を守る全国作文コンクール 加藤 陽菜

犯罪被害者支援室長賞 橋本こう子

◎風早アクアランド 三浦保環境賞特別賞

主な進路先 (内定状況)

(令和三年一月二十九日現在)

(進学)

松山大学
聖カタリナ大学
聖カタリナ短大
東雲女子大
山口県立大学
高知県立大学
河原学園
今治看護専門学校

(就職)

奥道後ゴルフ観光(株)
自衛隊

(計)

四年制大学 14
短期大学 4
専門学校(医療系) 13
専門学校(一般) 1
就職 29

33 19 13 4 14 29 2 2 21 3 15 1 1 1 4 2 2

北条今昔

令和二年度は、新型コロナウイルスが猛威をふるい、県総体も夏の野球の大会も中止となりました。これまで部活動を頑張ってきた生徒たちにはかわいそうな結果ですが、代替試合を行った競技もありますが、公式記録は残りません。

本校の玄関を入ると、かつて活躍した部活動のトロフィーや盾を飾っているケースがあります。その一部を紹介しましょう。生徒数の減少や、社会事情の変化に伴い、今は無くなっている部活動や低迷している部活動の、在りし日の姿を偲んでみて下さい。また、北条駅とその周辺の写真も載せてみました。変わっている姿、変わっていない風景等、往時を思い出してくださいれば幸いです。



陳列ケース



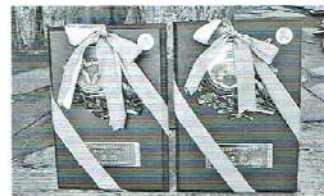
歩道橋から



今の伊予北条駅



駅前の“鹿”



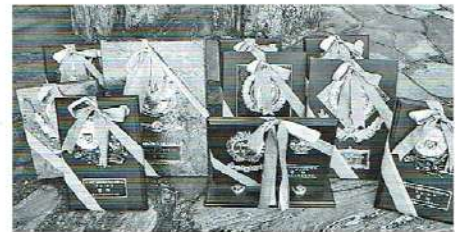
空手道部



定時制の栄光



ゴルフ部



弓道部

「コロナ禍の中で」

今年も新型コロナウイルスに翻弄され、文字通り日常が失われた一年でした。そこで、普通の女子高生二人の対談形式で非日常になった令和二年を振り返ってみます。私たちは二年次生のAとBと言います。

A「ホント、コロナコロナの一年だったよね。三月に卒業式が終わったから休校になって、四月の始業式にやっと学校に来れた」と思ったらまた休校……。」

B「休みの間なにしてた？」

A「課題がいっぱい出たからねえ。」

B「真面目にやりよったん？」

A「そういうあなたは？」

B「もちろん真面目にやったよ。あと筋トレしたり、読書とか趣味の時間に有効利用した。でも、さすがに長くなると睡眠時間が長くなってきたりして(笑)」

A「十二月になってまた感染者が増えてきたよね。」

B「土曜日に部活してたら、急に大事をとって、部活動が中止になったこともあったよね。」

A「あつたよね。そして、月曜日に登校したら『もう大丈夫です』、と聞いてホッとしましたよね。」

A「ホント心配したね。」



体育大会

B「それにしても、わからないことだらけの一年だったね。」

A「三密を避ける。検温する等が習慣になったよね。」

B「校内のいたるところに消毒剤があるし、放課後は先生が消毒して回ってくれているし。」

A「一人一人に携帯用の消毒液を配ってくれたね。便利だし、助かったね。」

B「弁当の時間も指定席になって、分散して食べるようになったね。」

A「でも、食べ終わったらすぐマスクして結局仲良しで集まっちゃう(笑)」

B「授業によつたら、大勢で受けるものは心配だし。話すのを控えるとか、自分でできることはやったほうがいいんだけど……」

A「電車の中とか不安じゃなかった？」

B「結局密になるから……なんかその場では何も言わないのに、苦情が寄せられました、みたいなことを聞いたような気がする。」

A「自転車通の人も大変だったみたい。暑いときはマスクの蒸気が半端ないって言ってた。」

B「夏場は熱中症対策で外していてもよかったけど、冬になって感染者が増えたらまた着用が義務付けられて。」

A「総体もなくなったね。」

B「私の部は部員が少ない部だけど、三年次生はかわいそうだったね。」

A「いろんな行事が中止になったり、縮小されたけど、やったものもあるよね。」

B「三年次生はできて良かったと思っただけ、準備の時から密の対策にテントを用意したりして大変だったらしいけど、結局その中が多くなったりして、まだまだ工夫がいるねって言ってた。」

A「文化祭は模擬店とかは無くなったけど、まあまあ面白かったと思わない？」

B「黒板アートとかアンブレラスカイとか、いろんな工夫があつて良かったよね。」

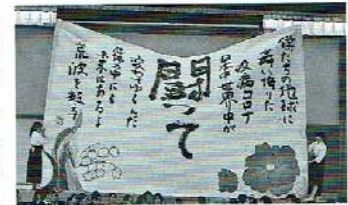
A「長崎方面にはなつたけど、修学旅行も行けたよね。」

B「楽しかったねえ。船の中がちょっと不安だったけど、無事に終わって良かったね。」

A「いろんな理由で行かなかった人がいたこと



文化祭



文化祭 書道パフォーマンス



修学旅行 みんなマスク!

も忘れたいかと思

A「まだまだ安心は出来ないし、これからはどうなるんやろ。」

B「春ごろの大騒ぎに比べてなんか雰囲気違うよね。慣れっこになつたというか……」

A「おしゃべりを控えるとか、三密を避けるとか、出来ることはもう一度気を引き締めてやらないとダメだよ。経済の事はかり耳にするけど、医療崩壊寸前とも言われているし、そうなる、もしもの時に困るのは自分たちだよ。」

B「そうそう、大人がマスクを外していたり、大声でしゃべったり……批判したらキリがないけど、やっぱりちゃんとすべきことはやりますよ！」

A「つてことで、今回の対談(？)はおしまい！」

B「申し遅れましたが、同窓会の皆様、学校旗、グループ旗の新調・トイ

レの洋式化、本当に有難うございました。」



修学旅行 食事の時もマスク!



新調グループ旗授与